

平成 27（2015）年さけます来遊状況（第 7 報：1/31 現在）

3 サケ年齢組成と体サイズ：今年度の最終報

国立研究開発法人水産総合研究センター

北海道区水産研究所 さけます資源部

- 全国の 12 月末時点での年齢別来遊数を推定すると、4 年魚（2011 年級）は前年を上回るが、5 年魚（2010 年級）は前年を下回り、1994 年以降では 2 番目の低水準
- 北海道の日本海側（オホーツク海区及び日本海区）では、4 年魚が 1994 年以降の平均的な水準を上回るが、5 年魚は日本海側及び太平洋側（根室～えりも以西海区）ともに 1994 年以降の平均的な水準の 5～6 割
- 本州の太平洋側では、4 年魚が前年を上回るが、5 年魚は 1994 年以降で最も少ない
- 本州の日本海側は 4 年魚が 1994 年以降で 3 番目に多く、3 年魚及び 5 年魚も来遊が良好
- 本州のサケ平均重量は 3.09kg で、前年同期の 95%
- 北海道のサケの平均重量は 3.43kg で、前年同期と同水準
- 北海道の主要河川に回帰した 4 年魚の尾叉長は、太平洋側の河川で 1989 年以降の平均並み～若干小さく、日本海側の河川で平均よりも若干大きい

・サケの年齢組成

（全国）

全国の主要な河川に回帰したサケの年齢査定途中経過をもとに、1 月末時点における年齢別来遊数を推定したところ、4 年魚（2011 年級）が来遊数の 67%を占めて最も多く、5 年魚（2010 年級）及び 3 年魚（2012 年級）がそれぞれ 24%及び 6%で続きます。4 年魚は前年同期 168%、1994 年以降の平均値（以下、平年同期）の 88%ですが、5 年魚は前年同期 51%、平年同期 47%と、1994 年以降の来遊数との比較では 2 番目に少ない状況です（図 1）。3 年魚も前年同期 63%、平年同期 70%と少ない状況です。

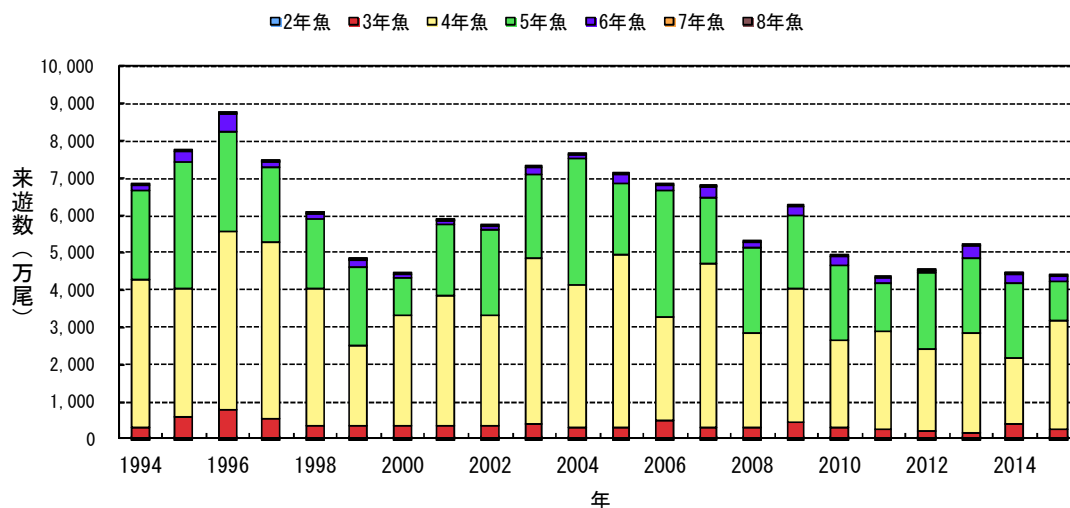


図 1. 1 月末時点のサケ年齢別来遊数 (全国).

(北海道)

4年魚(2011年級)が全体の67%と最も多く、次に5年魚(2010年級)が25%を占めました。4年魚は前年同期の174%と前年を上回りましたが、5年魚は前年同期の57%あまりと減少しました。1994年以降の平均値(平年同期)と比べると、4年魚が96%、5年魚が52%となっており、5年魚で平年同期の半分ほどと少なく、1994年以降では2番目に低い水準となりました。また、3年魚(2012年級)も前年同期60%、平年同期73%と、前年および平年を下回りました(図2)。

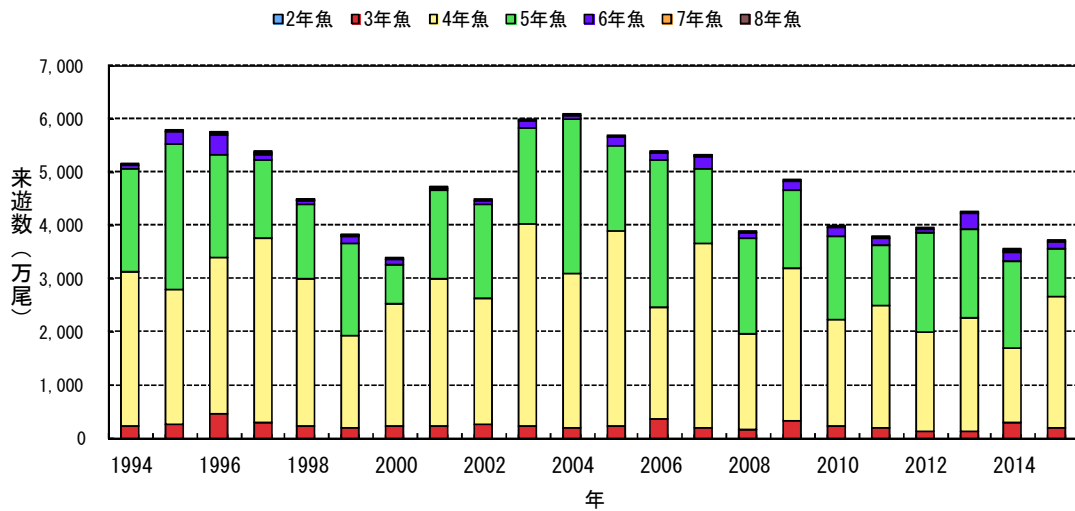


図2. 1月末時点のサケ年齢別来遊数(北海道).

年級群(生まれ年)ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2011年級は、4年魚までの来遊数(2~4年魚の来遊数)で比べた場合、近年(1992年級以降)の平均の99%と平均的水準でした(図3)。一方、5年魚である2010年級は、5年魚までの来遊数(2~5年魚の来遊数)でみた場合、1992年級以降で最も少なく、近年の平均値に対して54%あまりにとどまりました。

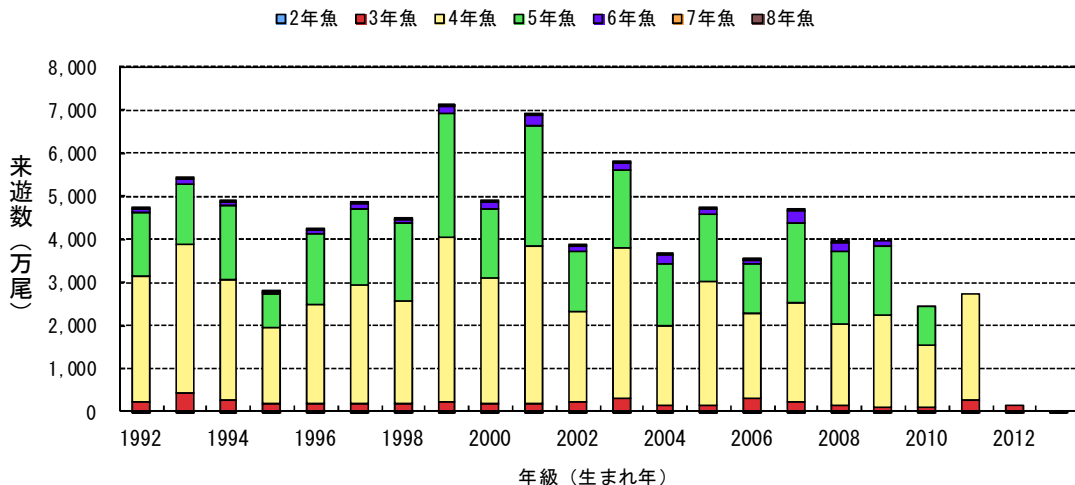


図3. 1月末時点のサケ年級群(生まれ年)別来遊数(北海道).

地域別にみると、太平洋側（根室～えりも以西海区）では、4年魚が前年同期の177%でしたが、平年同期との比較では82%となっており、平年よりも少なくなりました。5年魚は前年同期58%、平年同期48%と少なく、1994年以降では3番目に低い水準でした（図4）。一方、日本海側（オホーツク海区及び日本海区）の4年魚は平年同期114%と良好な来遊となりましたが、5年魚は平年同期の56%あまりでした（図5）。また12月末における3年魚は、日本海側で平年同期68%、太平洋側で同77%となっており、ともに平年よりも少ない状況でした。

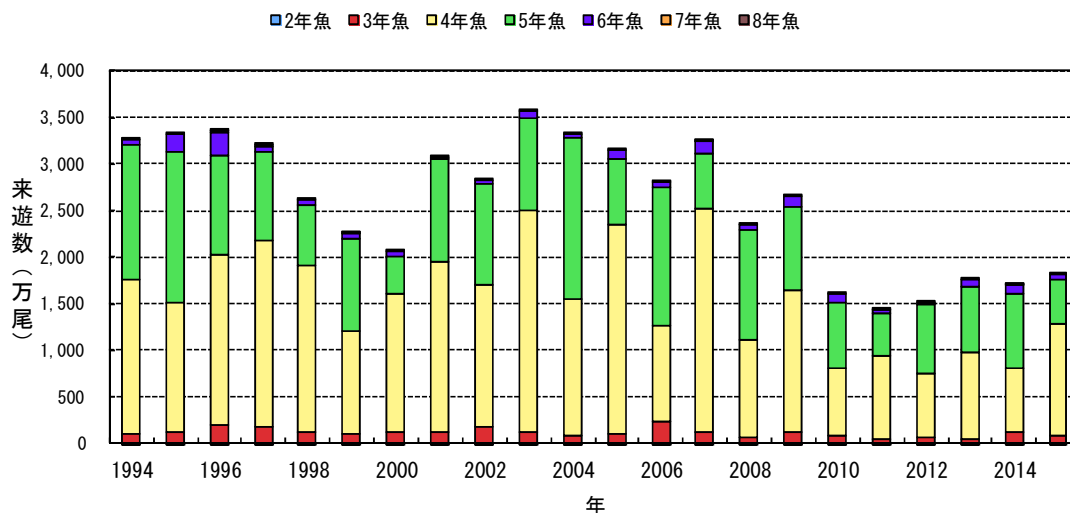


図4. 1月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

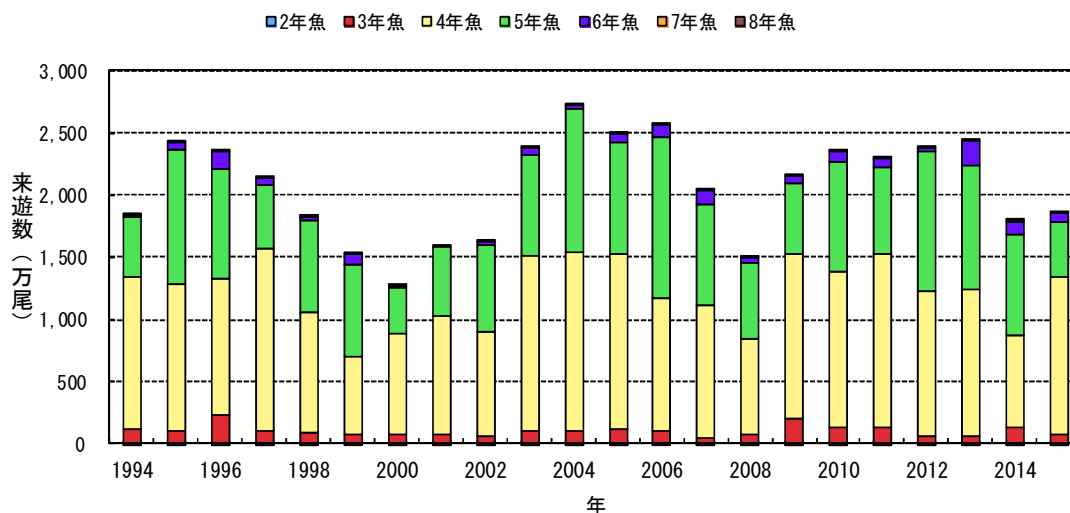


図5. 1月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

(本州)

本州太平洋側では、4年魚（2011年級）が全体の62%を占めて最も多く、5年魚（2010年級）が19%で2番目に多くなっています。4年魚は前年同期139%、平年同期52%であり、前年よりは多いですが1994年以降の平均値と比べると少ない状態です（図6）。5年魚は、前年同期27%、平年同期27%とともに低水準で、1994年以降の5年魚の来遊数としては最低となっています。3年魚（2012年級）は、前年同期71%、平年同期60%と現時点では1994年以降で6番目に低い水準です。なお、本年の5年魚である2010年級は、東日本大震災で被災した年級に相当し、それよりも若い年級（2011年級以降）では、震災の影響で本州太平洋側からのサケ放流計画数自体が過去の平均的水準よりも少なくなっています。詳しくは北海道区水産研究所ホームページの全国人工ふ化放流計画（URL：<http://salmon.fra.affrc.go.jp/zousyoku/plan/plan.htm>）を参照ください。

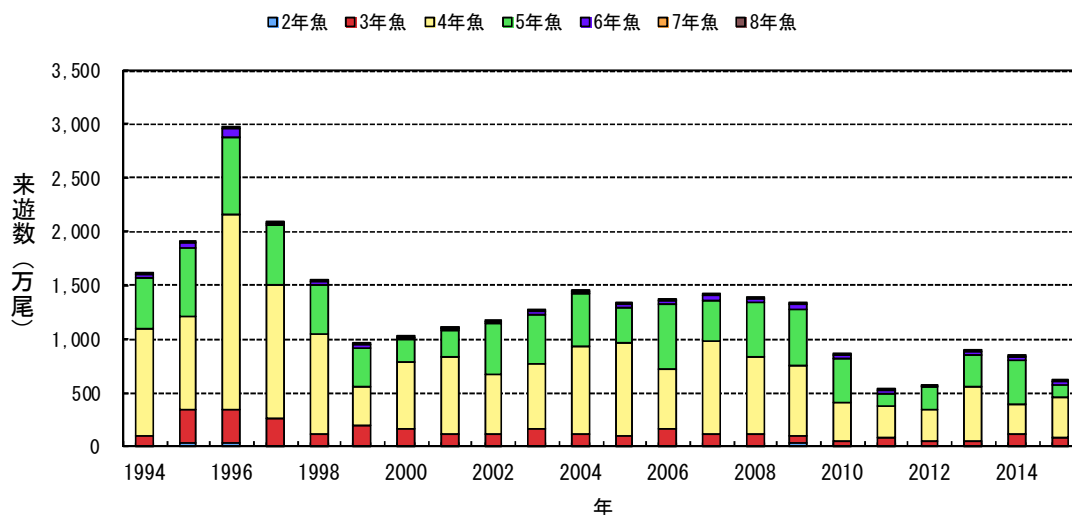


図6. 1月末時点のサケ年齢別来遊数（本州太平洋）.

本州日本海では、4年魚（2011年級）が全体の68%と最も多く、次に5年魚（2010年級）が16%、3年魚（2012年級）が14%で続きます（図7）。4年魚は前年同期157%、平年同期179%と好調で、1994年以降では3番目の多さになっています。5年魚も前年同期145%、平年同期124%と好調です。3年魚は前年同期58%と前年よりも少ないですが、平年同期との比較では128%と好調です。このように、本州日本海では主群の4年魚に加えて、3年魚及び5年魚の来遊が良好です。

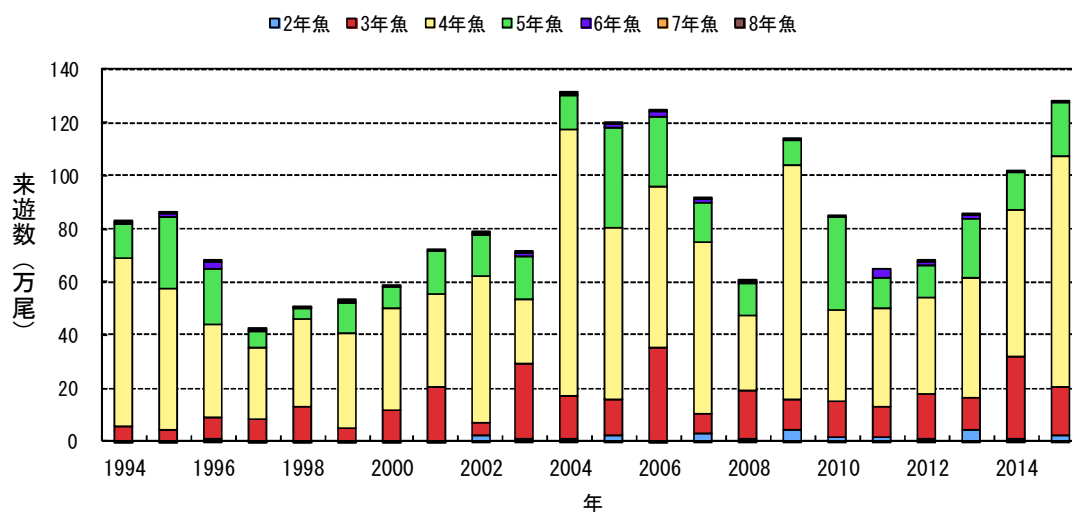


図7. 1月末時点のサケ年齢別来遊数（本州日本海）.

・サケの体サイズ

本州の1月末までのサケ1尾当たりの平均重量（サケ漁獲数と漁獲重量から算出）は3.09kgであり、前年同期の95%ほどに相当します。

北海道における2015年度のサケ1尾当たりの平均重量は3.43kgであり、これは前年度の98%にあたります。平成元(1989)年～平成26(2014)年度の平均重量と比較した場合、今年の体サイズは近年では平成21(2009)年～平成22(2010)年及び平成26(2014)年に近い水準となっています(図8)。

北海道の主要河川に回帰したサケ4年魚の平均尾又長は、太平洋側の河川(西別川、十勝川、遊楽部川)で前年よりも若干小さく、日本海側の河川(斜里川、石狩川)でやや大きくなりました。1989～2014年の平均値と比較すると、太平洋側の河川では平均並み～約1cm小さかったのに対して、日本海側の河川では平均を1.3～1.4cmほど上回りました(図9)。

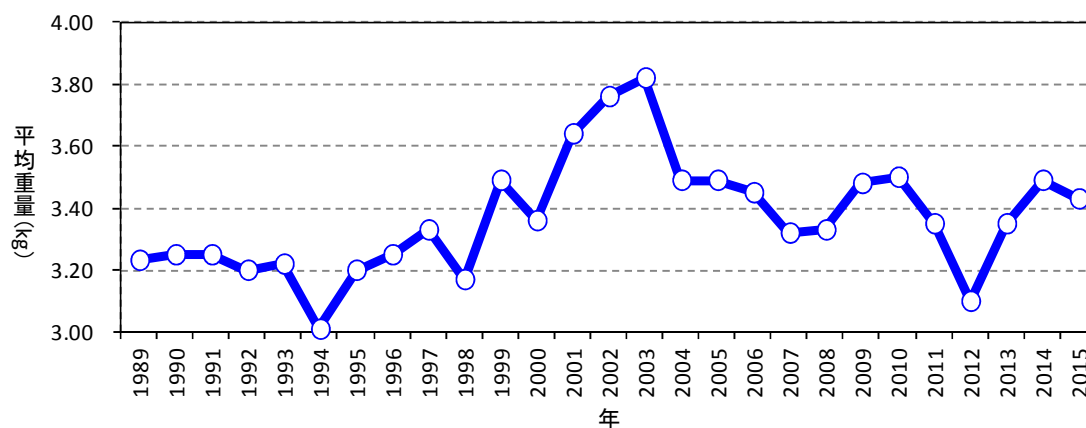


図8. 1989～2015年度のサケ平均重量 (北海道).

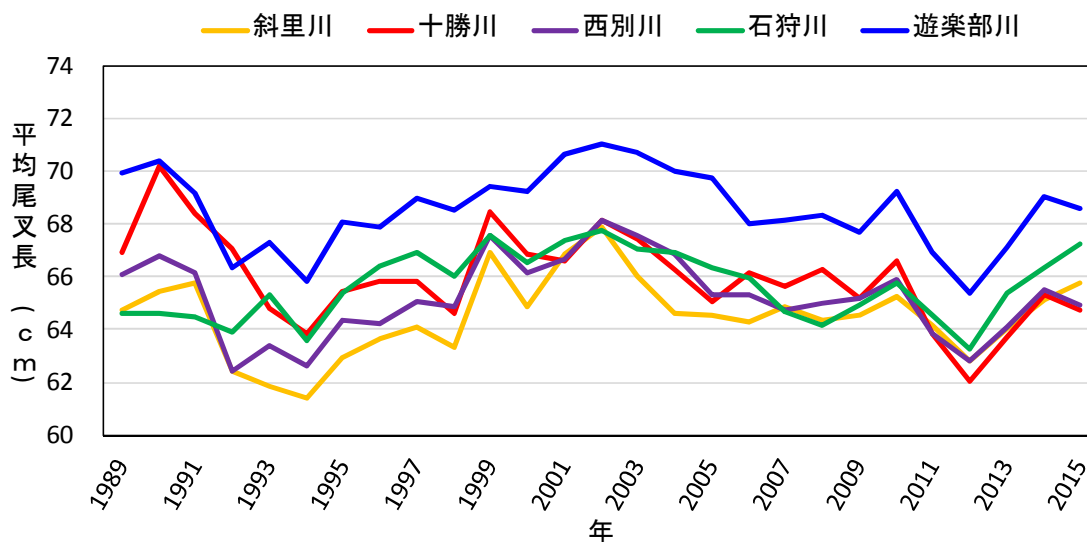


図9. 北海道の主要河川におけるサケ4年魚 (雌雄込み) の平均尾又長.